

## 研究報告（抄）

此の度当外国語研究センターより研究旅費を拝掌したので、夏の日（8月23日）大阪芸術大学助教授上杉昭夫氏のもとを訪れ多くの点について御指導を頂いたので、その要目のみを以下に記し報告にかえたい。

（1）グラムシの「獄中ノート」の決定版ともいうべきV. ジェッラターナ編（エイナウディ社）の邦訳については大月書店から第一巻が刊行されたが続巻は未刊である。文芸関係とりわけグラムシのマンゾーニ批判を訳された上杉氏に未刊の御邦訳の稿を閲覧させて頂いた。

氏によれば、グラムシの「マンゾーニ批判」はマンゾーニに内在していえば「的外れ」であることを氏の「Evo Zentai」に関する研究を援用されて主張された。貴重な御教示である。

（2）従来のグラムシの邦訳（合同版）では形容詞「umile」が「貧しい」と訳されているがこれは訳者の思い込みが入りすぎている感が強く、

## 黒沢 惟昭

むしろ「素朴な」という訳語の方が原意に近いのではないかとのことであった。

なるほど、その「訳」で読み返してみると「知識人—大衆」関係におけるグラムシの「含意」もよりわかりやすいように思われる。

（3）グラムシのアルチュセールの読み方が（西）ドイツの一潮流（ex. A. デミロヴィッチ or U. シュライバー etc）にみられるがイタリアの状況はどうなのか、とりわけ文学研究における「テキスト」論などのグラムシ研究への応用はみられないのかとの私の質問については明確な教示が得られなかった。今後の課題と考える。

以上三点、それもほんの要目のみを述べたが、いずれ私見をさらに吟味しつつ成稿を試みたいと念う。そのため大変貴重な示唆的な御教導であった。その機会を与えて頂いたことを上杉氏と当センターに篤く御礼申し上げる。